



## さあ、答え合わせをしよう！

### 第14週目 10/19 ⑭行ってみよう～新潟県(にいがたけん)からの出題

※ココを見てね!▶行ってみよう～新潟県(にいがたけん)

1. 古代の新潟県(にいがたけん)は、何の国と呼ばれていましたか？

正解:③越後(えちご)と佐渡(さど)

このWEBサイトの都道府県(とどうふけん)分けて見ると、新潟県(にいがたけん)は中部地方に属(ぞく)しています。東北(とうほく)や関東(かんとう)地方にも隣接(りんせつ)しているほか、日本海に面しているため、海の向こうの国など、大昔からいろんな地域(ちいき)と交流していました。正解は、③越後(えちご)と佐渡(さど)ですね。豊かな自然に育(はぐ)まれた新潟県(にいがたけん)には、米・酒・水をはじめ美味しいものがいっぱい。佐渡島(さどがしま)には天然記念物(てんねんきねんぶつ)の「朱鷺(とき)」が保護(ほご)されています。

2. 国宝(こくほう)の新潟県の縄文土器(じょうもんどき)は、何という？

正解:①火焰型土器(かえんがたどき)

縄文土器(じょうもんどき)は、縄目(なわめ)の模様(もよう)がついたものが多くみられますが、新潟県(にいがたけん)で縄文時代中期(じょうもんじだいちゅうぎ)につくられた、大きく立ち上がる突起(とつき)が、燃(も)えさかる炎(ほのお)のように見える独特(どくとく)なデザインの土器(どき)を「火焰型土器(かえんがたどき)」と名づけました。正解は、①です。その中でも十日町市の笹山遺跡(ささやまいせき)から出土(しゅつど)した土器(どき)や石器(せっき)が、1999年4月に国宝(こくほう)に指定(してい)されました。ちなみに、「赤彩土器(せきさいどき)」は、赤い顔料(がんりょう)で塗(ぬ)られた土器(どき)、「須恵器(すえき)」は、青灰色(あおはいいろ/せいかいしょく)の陶質土器(とうしつどき)です。

3. 弥生時代(やよいじだい)に、戦(たたか)いに備(そな)えたムラだと言われる環濠集落(かんごうしゅうらく)は、どこにつくられていますか？

正解:②高地

正解は、②高地です。環濠集落(かんごうしゅうらく)は弥生人(やよいじん)のムラで、平地(へいち)で多く見つかっています。これに対し、質問にある「戦いに備えたムラ」と言われるものは高地につくられ、「高地性環濠集落(こうちせいかんごうしゅうらく)」とよばれています。高い所だと遠(とお)くまで見通せるためですね。代表的な遺跡(いせき)として紹介(しょうかい)している、新潟県(にいがたけん)の山元遺跡(やまもといせき)のページも見てね。

4. 樽口遺跡(たるくちいせき)で見つかった細石刃(さいせきじん)は、特徴的(とくちょうてき)な作り方の起源(きげん)が、どこにあるとされていますか？

正解:③シベリア

「細石刃(さいせきじん)」というのは、打製石器(だせいせっき)の一種(いっしゅ)です。山形県(やまがたけん)との県境(けんぎかい)に位置(いち)する樽口遺跡(たるくちいせき)からは、旧石器時代(きゅうせいせきじだい)の終わりごろの東北(とうほく)地方でつくられた細石刃(さいせきじん)が見つかっていて、その作り方に特徴(とくちょう)が見られ、地理的(ちりてき)に近い、海の向こう側と交流(こうりゅう)があったことがうかがえます。正解は、③シベリアです。

5. 次のうち、「火焰型土器」はどの時代に登場(とうじょう)したの？

正解:②縄文時代(じょうもんじだい)

この質問は、簡単(かんたん)でしたね。正解は、②縄文時代(じょうもんじだい)。中期(ちゅうぎ)につくられたものです。「火焰型土器(かえんがたどき)」の美しさど迫力(はくりょく)は、とにかくスゴイ！日本を代表する芸術家(げいじゅつか)であり、民族学者(みんぞくがくしゃ)の岡本太郎(おかもとたろう・1911-1996年)さんも、「火焰型土器(かえんがたどき)」を見て次のように言ったそうです。<われわれの近代的感覚(きんだいてきかんかく)に直接(ちよくせつ)、ビリビリとふれてきます>と。ぜひ、キミたちにも本物を見てほしいです。